

令和2年度自己点検自己評価まとめ

I. 学校経営

【内容】

1. 学校のビジョンおよびそれを実現するための組織目標を作成しており、かつ、その目標が教職員に理解されているか。
2. 組織目標に対する評価を実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の目標につなげているか。
3. 学校運営評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、外部にも公表しているか。また、評価結果をもとに改善計画を策定しているか。
4. 管理職のリーダーシップのもと、各リーダーがそれぞれの部署をまとめチーム力を発揮し問題解決に当たっているか。

【評価】

令和1年度より0.5ポイント高い結果であった。

校長より年間目標が示され、それに基づき領域会議・各委員会会議にて、中長期目標を策定している。さらに、各自個人にて年度目標を策定し、目標管理シートの作成を実施している。また、教員ラダー制度の到達目標に基づき、中間評価（自己評価・他者評価）を行い、その結果を後期に活用している。

令和2年度より学校関係者評価を実施し、ホームページにて公表している。また、その結果から改善計画を策定し、次年度の目標につなげている。

教員会議を定例化し、教員間のコミュニケーションの活性化を図ることはできた。しかし、新規プロジェクト会議等にて時間調整が困難であったため、教職員会議の機会が減少し教員と事務職員の連携が不足していたため、今後の課題とする。

II. 教育課程・教育活動

【内容】

1. 卒業時においてもつべき看護師の資質を、教育目標に明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。
2. 学習内容は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容になっているか。
3. 授業計画が作成され、教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。
4. 効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか。
5. 授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善しているか。
6. 学生の単位取得に向けた支援を実施しているか。
7. 実習目標が達成されるよう実習環境が整備されているか。
8. 実習指導者と教員の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。

9. 学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、かつ、評価について公平性・妥当性が保たれているか。
10. 実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。
11. 実習時のインシデント、アクシデント等を分析し、学生指導に生かしているか。
12. 学生による授業評価および教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか。

【評価】

令和1年度より0.7ポイント高い結果であった。

1) 教育課程編成に関すること

(1) 教育課程評価を行い、カリキュラム改正に向け学校の独自性や社会の要請に応じた教育課程の編成を実施することができた。(科目間の重複が多いという評価から、領域横断科目を設定した。また、看護技術の教育を本校の柱とした独自性のある教育課程を構築することができた。) 医療人材課からの認定が令和3年に行われるので、見直しが必要になった場合は、指定規則との整合性に基づき修正を行うことを課題とする。

(2) 前年度課題とした、卒業生をディポロマポリシーに照らし評価することに関しては、看護技術の到達度評価を実施し、実習施設に情報提供を行った。その他の部分の評価が不十分であったので今後の課題とする。

2) 実習に関すること

新型コロナウイルスの影響で、臨地実習ができず学内で代替えた実習が多数生じた。実習目的を達成するために、学内実習でどのような学習をすればよいかを、会議を重ね演繹・帰納的両面から内容を構築することができた。学内実習中も教員間でコミュニケーションを密に図り、課題を共通認識し改善に努めることができた。学内実習を構築する上で、前年度より開始し、今年度よりすべての実習で導入したルーブリック評価が非常に役立ったと考える。

厳しい状況下においても、実習を受け入れて下さった施設とは、情報交換を常に行い大きな問題もなく実習を行うことができた。引き続き、感染状況を見極めながら施設とは情報交換を行い、円滑な実習を行うことを課題とする。

3) 授業に関すること

新型コロナウイルス拡大による緊急事態宣言の影響で、再三の時間割変更が生じ、5月から授業開始となった。講義形態も課題学習、動画視聴による学習、ZOOMによる授業と多様なものとなったが、教職員一丸となって、カリキュラムに支障がない様に学生に関わり、大きな問題は生じなかった。その後も感染の状況に応じて、授業形態の工夫を行い、学生の単位取得に向けた支援が実施できた。

授業評価は外部講師・専任教員ともに実施しているが、結果のフィードバックが不十分であるため、課題である。また、前年度同様、評価結果を各領域で共有し、具体的な改善計画の立案も引き続き課題である。

Ⅲ. 入学・卒業対策

令和1年度より0.6ポイント高い結果であった。

【内容】

1. より多くの応募者を確保することに努めているか。
2. 国試の合格率が100%となるよう、教職員一丸となって取り組んでいるか。
3. 質の高い卒業生を多く排出するための努力を行っているか。
4. 卒業生への支援を行っているか。

【評価】

1) 応募者確保に関すること

入試委員会で募集広報活動に関する検討をし、今年度は新型コロナウイルスの影響で一部内容の変更を行ったが、オープンキャンパス・学校説明会を定期的実施することができた。また、新たな試みとして社会人限定の説明会を実施した。しかし、開始時期が遅れたため、参加者前年度比13.6%減となってしまったため、今後の課題としたい。

例年は、近隣の高等学校並びに業者開催の学校説明会に出向き学校案内を行っているが、今年は感染症対策のため、そのような機会は激減したため、今後も続くことが予測される。したがって、コロナ禍における応募者確保の方法を、新たに考える必要がある。しかし、入学志願者は前年度比20.4%増であったため、応募者確保に関しては一定の評価をしてよいと考える。

入学者の出身校との関係性強化は、一部の学校ではあるが、学生の情報共有を行うことができた。今後、安定した入学者確保を考慮し、引き続いての関係構築強化が必要である。

2) 質の高い卒業生の輩出に関すること

第110回看護師国家試験の合格率は前年度を上回り、目標とする100%合格となった。その要因としては、令和2年度に新たに立ち上げた「国家試験100%合格プロジェクト」の効果が非常に大きかったと考える。前年度の国家試験対策の評価を行い、課題解決に向け教職員一丸となって学生支援をした結果であることから、今年度も引き続き前年度の評価を踏まえ、合格率100%を目指したい。

個別学生支援として、成績が振るわない学生には、面接や必要に応じて保護者との三者面談を実施している。さらに独自の入学前教育を行いその評価を指導計画に活用し、継続した学生指導を行っている。また、課外時間でも学習・技術指導を行い学生への支援を行っている。しかし、個々の学生の状況に応じた支援をしているにもかかわらず、退学者が増加したため、引き続き個々の学生に対し、学習継続に向けた支援を行ない、退学率2%以下を目指したい。

3) 卒業生への支援に関すること

前年同様、卒業4ヶ月後にホームカミングデイを実施し、参加した卒業生からも高い評価を得ている。また、ホームカミングデイ以外でも卒業生が来校し、仕事の上での悩みを打ち

明けることで、就業継続に繋がっていることがある。既卒者に対する就職相談も実施しており、実習病院への就職者も多いため、卒業生へのサポート体制は構築できていると考える。

コロナ禍のため、例年のように入学式・戴帽式・卒業式に卒業生が臨席することができなかった。また、前年度の課題同様、同窓会システムが正常に機能していないため、卒業後も継続して学生支援ができるようなシステム作りが必要である。

IV. 学生生活への支援

【内容】

1. 進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。
2. 経済的、精神的側面からの学業継続支援体制が整い、効果的に活用しているか。
3. 学生の身体的側面の健康確保に努めているか。
4. サークル活動などの学生の自主的な活動を支援しているか。

【評価】

令和1年度より0.5ポイント高い結果であった。

1) 学生相談に関すること

入学時よりキャリア相談を行うとともに、適宜情報提供を行っている。例年は就職支援として実習病院を招き、就職説明会を実施しているが、新型コロナウイルスの影響で今年度は実施することができなかった。今後は、リモート開催等の新たな方法を考え実施する必要があると考える。

精神的支援として、カウンセラーが週1回定期的に来校し、学生の精神的側面から学業継続をサポートしている。今年度新入学生は、新型コロナウイルスの影響下で、入学式や講義等様々な変更が生じたため、学生生活に対する不安が大きいのではないかと考えた。その為、新たな試みとして全員カウンセラーと面談する時間を設け、カウンセリングを受けやすい環境づくりを行った。

身体的支援として、例年はインフルエンザやノロウイルスなどの流行時には、感染予防に関して周知・啓発を行っている。今年度はそれに加え新型コロナウイルスの対応マニュアルを作成し、学生に周知徹底するとともに、非接触人感センサー型体温計・足踏み式アルコール消毒器等を昇降口に設置し、感染予防に留意した。その結果、新型コロナウイルスに関しては、家族内感染をしたもの1名に止まり、インフルエンザ等その他感染症に関しては、未発生であった。以上感染防止対策に関しては効果的に機能しているため、今後も継続していく。

2) 学生の活動に関すること

学生の自主的な活動としては、講堂にバスケットゴール、卓球台を設置し、一部サークル活動を行うための環境は整えた。しかし、学生自ら活動するといった行動に結びついていないため、引き続きの課題とする。

V. 管理運営・財政

【内容】

1. 予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っているか。
2. 学生や教職員等の人権・個人情報の保護について十分な対策がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。
3. 災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯、交通安全意識の向上に努めているか。
4. 学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。

【評価】

令和1年度より0.9ポイント高い結果であった。

1) 危機管理に関すること

新型コロナウイルス感染症の影響下、防災訓練は内容を工夫して実施した。また、災害時の非常用物品は補充し備蓄している。引き続き、前年度同様近隣との協働が必要であると考えられるため、より地域との連携を視野に入れた防災への体制作りが求められる。また、前年に引き続き、教職員の緊急連絡訓練等を実施していないため、今後の課題とする。

2) 情報管理に関すること

コロナ禍でICT教育が進んだため、それに伴い学校管理委員会を立ち上げ、その中の組織として情報管理委員会を設置し「SNS利用に関する規程」を策定した。また、入学時や、進級時に学生に対して個人情報の守秘義務の重要性に関しての説明を行い、学生に「遠隔授業・SNS利用に関する誓約書」の記入を依頼した。さらに令和3年度新入学生より、ICT教育が促進されるため引き続きの課題としたい。

その他、学生の実習記録の管理はルール化されており、情報管理に関しては大きな問題はないと考える。

前年度の課題とした、ハラスメント学習会を実施できなかったため、継続的に学習会を行うことが課題である。

3) 財政に関すること

年間計画に基づき計画的に予算・事業執行を行っている。HP上で財務状況の公表も行っているが、教職員が意識的に財政に関して考えることが不足している。また、前年度同様、教職員それぞれが経費削減対策を行っているとは言えないため、引き続きの課題としていく。

4) その他

前年度の課題とした学生の意見箱を設置した。しかし、学生の意見に関して運営会議上で共有はできたが、要望への回答を公開していない為、学校運営に学生の意見が反映されるようなシステムが構築されていないため、引き続きの課題としていく。

VI. 施設設備

【内容】

1. 施設・設備の安心・安全が確保されているとともに障害者の利用に配慮された構造になっているか。

- 2.教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また学生の自主的な学習の場が確保されているか。
- 3.学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。
- 4.図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。
- 5.実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い、十分にその機能を果たしているか。

【評価】

令和1年度より0.6ポイント高い結果であった。

学生の自主学習スペースは確保できているが、新型コロナウイルス感染症の影響で、十分な活用はできなかった。実習室も指定規則に定められたスペース、設備は確保している。施設は、時間外や長期休業中も使用可能であるが、こちらも感染症の影響下で通常通りの活用ができなかった。

図書管理に関しては、引き続き司書配置が出来ていないため蔵書管理が困難であるため、学生の利便性の面からも課題としていく。

VII. 教職員の育成

【内容】

- 1.学校の抱えている課題を踏まえた職場内研修を行っているか。
- 2.学会または研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。
- 3.教員が計画的に臨床看護研修に参加できるよう支援しているか。

【評価】

令和1年度より1ポイント高い結果であった。

研修参加としては、カリキュラム改正に向け、教員全員でリモート研修に参加することができた。また、前年度の課題であった「教育実践能力」向上のため、学校の課題を踏まえた職場内研修を実施することができた。

教員の研究活動に関しては、ほとんどの教員が実施できていないため、引き続きの課題とする。また、教員の授業参観制度も実施できていないため、同様に課題とする。

VIII. 広報・地域活動

【内容】

- 1.学校の存在を周知するため、ホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしているか。
- 2.地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか。

【評価】

令和年度より0.1ポイント高い結果であった。

- 1) 広報活動に関すること

ホームページをリニューアルし、学校の存在や特色を周知することができている。また、Instagram・Facebook等に情報公開し、積極的な広報活動ができている。しかし、他校と

の比較をした場合、更なる積極的な広報活動が必要であると考え。自校の広報活動の評価をしっかりと行ない、その結果を活かした広報計画の策定を引き続きの課題としていく。また、引き続き HP 上で十分に活用されていない部分があるため、学生が十分に活用しやすい内容に改善することが課題である。

2) 地域活動に関すること

地域ボランティアとしての登録を行い、学生・教員にて学校周辺の清掃活動を新型コロナウイルス感染症の影響下ではあるが、年間5回実施することができた。

地域との連携を図ることを目的とし、近隣の小学校を対象に、教育活動への協力を申し出ているが要請がないため、再度連携を申し出るとともに、地域との他の連携方法を思案していく必要があると考える。

姉妹校の高等学校の保健医療クラスに対し、5回／年程度、教員の派遣や当校での看護技術体験等を行ない、教育活動への協力を行った。引き続き地域社会の一員として地域への貢献・奉仕活動・連携の工夫を行うことが課題である。

令和2年度最終結果

令和1年・・・青線

令和2年・・・赤線

